

夕刊フジ 2023年(令和5年)9月23日



「X」を短文投稿のツールから脱皮させ、多種多様な金融関連業務を実行できる立体的な「万能アプリ」として使ってもらおうということ。

かつてマスク氏自身が設立者の1人だった「ペイパル」(電子メーラアカウントとインターネット)を利用して決済サービスを提供する企業)のようなフィンテック分野への参入を目指しているのだから、フィンテックは金融(ファイナンス)と技術(テクノロジー)を組み合わせた造語。

米国の「X」(旧ツイッター)が6月以降、アリゾナ、メリーランド、ジョージアなど7つの州で、通貨の送金および決算事業に必要なライセンスを取得した。これにより為替業務やプリペイドカードの発行も可能となる。同社のイーロン・マスク会長は7月、「X」について、「今後数カ月のうちに包括的なコミュニティケーションと金融の世界全体を指揮できる機能を追加する」と表明している。ソーシャルメディアプラットフォームの由もわかってきた。

「X」金融サービス進出、マスク会長の野望

「海外送金」からの参入が成功の近道か

今回、マスク氏に代わって新CEOに据え

たリンダ・ヤツカリノ氏は、ターナー・エリントン・テイメントの広告販売担当執行副社長や、NBCユニバーサル(NBC)の広告担当責任者だった人物。

マスク氏の急速な革新で離れてしまった広告主の信頼を回復するためにスカウトしたのである。この人はフィンテックには強くない。この分野はマスク氏自ら陣頭指揮をとることになるのだろう。

ただ、先の「ペイパル」も含め、米国で金融関連業務もできる「スーパーアプリ」でまだまだ本格的に成功した例はない。中国ではアントファインアンシャルなど政府に認められなければ化け物級の成長をしてきた事例があるが、それと比べてもアメリカのこの分野の出

遅れが目立つ。

もう1つ、米国の場合には、銀行のライセンスというのは州別に取得しなければならない。例えば、あのシテイバンクも、もともとはニューヨーク州で認可されたのが始まり。

米国は州の独立性が強く、「ここはウチの地元銀行がやるので、ほかのところは入ってこないで」ということができるわけ。

全米でこういった銀行業務の決済、送金業務を展開するためには、各州ごとにライセンスの取得が必要となる。Xも7つの州でのライセンスを取得ということだが、全部やろうとすると大変なことになると結構かつたらしい。

ここはむしろ海外送金の分野から始めた方が早いのではないかと。米国にきている出稼ぎの人は、メキシコ人が

トップで、フィリピン、インド、コロンビア人も多い。このフィリピンやインドから出稼ぎにきている人を対象に、送金サービスをするといいのが、成功の近道かもしれない。

ビジネス・ブレイクスルー(スカパー1557チャンネル)の番組「大前研一ライブ」から抜粋。

関連動画
要チェック!